

	新出題基準対応新用語	解説文
1	eGFR	推算糸球体濾過量＜eGFR＞を参照。
2	Epstein真珠	■上皮真珠：幼児の歯肉嚢胞に類似したものととして、口蓋突起癒合部に封入された遺残上皮に由来するEpstein真珠や、口蓋線に由来し口蓋に散在するBohn結節があるが、これらを一括して上皮真珠という場合がある。
3	GERD	「胃食道逆流症」参照
4	Hansen病＜ハンセン病＞	■Hansen病＜ハンセン病＞ 抗酸菌の一種である癩菌が皮膚のマクロファージおよび末梢神経細胞に寄生することにより起こる感染症。末梢神経障害と難治性皮疹などの皮膚症状がみられる。
5	HLA（組織適合）検査	■HLA検査 HLA(human leukocyte antigen)を特定する検査。HLA抗原は、ほぼすべての細胞表面に発現し、臓器移植や特定の疾患との関連を調べるなどに使われている。
6	HLLT	■HLLTとLLLT レーザー治療は出力の違いにより、出力の高い高反応レベルレーザー治療（HLLT）、出力の低い低反応レベルレーザー治療（LLLT）に大別される。HLLTは切開、蒸散・凝固などに使用され、LLLTはアフタ性口内炎の疼痛緩和に使用されている。なお、頭頸部癌の放射線治療による口腔粘膜炎に対するLLLTの有用性が国際がん支持療法学会の臨床診療ガイドラインでも提言されている。
7	Mucicarmin染色	■Mucicarmin染色 組織切片中の酸性ムコ多糖類を組織学的に染色するもの。粘液産生細胞の同定にはMucicarmin染色が有用である。
8	PCR(Polymerase Chain Reaction)法	■PCR（ポリメラーゼ連鎖反応）法 DNAの増幅法で、従来の培養法に比べてごく少量のDNAを短時間で大量に複製できる。その結果特定のDNA領域をもった細菌やウイルスの存在を比較的短時間で判定することができる。PCR検査は、医学、薬学のほか、遺伝学、DNA鑑定、考古学など幅広い分野で行われている。
9	GERD（胃食道逆流症）	■胃食道逆流症 下部食道括約筋や消化管の蠕動運動が低下することで、胃内容が食道に逆流し、胸焼けを引き起こす疾患。食道炎、食道狭窄および上皮異形成を招く。食道粘膜のびらんや潰瘍を生じ、治療後に狭窄を残すことがある。
10	インターベンショナルラジオロジー	■Interventional Radiology（IVR、画像診断的介入治療） X線診断学で使われる手技を治療に応用したもの。口腔外科領域での応用として、口腔癌の症例では血管造影法の手技を用いて腫瘍の栄養血管に直接抗がん剤を注入する超選択的動注化学療法が行われている。ほかに唾液腺造影法の手技を用いた唾石摘出術、顎関節腔造影法の手技を用いた関節腔洗浄療法なども行われている。
11	嚥下スクリーニング質問紙	■嚥下スクリーニング質問紙法（swallowing questionnaire） 質問項目に対する回答を被検者自身で記載してもらう方法である。質問紙には「EAT-10」「聖隷式【ルビ：せいれいしき】嚥下質問紙」が広く用いられている。日常の臨床場面で簡便に使用できることから、摂食・嚥下障害の症状の有無を診断する上で有用とされている。
12	画像診断的介入治療	「インターベンショナルラジオロジー」参照

	新出題基準対応新用語	解説文
13	好塩基球活性化試験	■好塩基球活性化試験 患者血液から分離した好塩基球を薬物（アレルゲン）で刺激し，好塩基球の活性化マーカーであるCD63とCD203cの発現をフローサイトメトリーで解析する方法である。
14	口唇閉鎖力検査	■口唇閉鎖力検査 専用の測定器を用いて口輪筋活動による口唇の最大閉鎖力を測定するもの。
15	抗微生物薬	■抗微生物薬 微生物（細菌，真菌，ウイルス，原虫，寄生虫など）に対する抗微生物活性をもち，感染症の治療や予防に使用されている薬剤の総称。
16	誤嚥性肺炎	■誤嚥性肺炎 本来気管に入ってはいけない物が気管に入り（誤嚥），そのために生じた肺炎である。高齢者や脳卒中患者では「むせ」を伴わない不顕性誤嚥が多いといわれ，口腔内からの誤嚥と睡眠時に逆流した胃の内容物の誤嚥がある。
17	骨造成術	■骨造成術 主にインプラント治療を前提とし，さまざまな方法および材料を用いて水平的（幅），垂直的（高さ）に骨量を増やす外科手技。生物学的に骨細胞の増加を伴う骨組織の増量を特に骨増生とよぶ。
18	三叉神経ニューロパチー	■三叉神経ニューロパチー 三叉神経に機能障害が生じ，感覚の異常をきたす病態の総称で，疼痛の有無は問わない。原因には，智歯抜歯をはじめインプラント手術，歯内療法などの歯科治療や，帯状疱疹やHIV感染，骨髄炎などの三叉神経を傷害する感染症，三叉神経痛や多発性硬化症などの神経疾患，聴神経腫瘍などの三叉神経に傷害を起こしうる空間占拠性病変，顎骨腫瘍や転移性腫瘍などが含まれる。
19	支持療法	■支持療法 癌などのような重篤な疾患や生命を脅かすような疾患を抱えている患者の生活の質を改善するために行われる治療，ケアのこと。例えば，口腔機能管理などが該当する。もしくはその疾患の治療時に処方される抗がん剤等による副作用を軽減するために行われるもの。
20	ジスキネジア	■ジスキネジア 自分では止められない・または止めてもすぐに出現するおかしな動きをまとめた呼び名。
21	ジストニア	■ジストニア ジストニアとは意思によらない自分では制御できない運動（不随意運動と呼ばれる）の一つで，比較的長い筋肉の収縮により生じる。体のさまざまな部位にみられ，頻度の高いものとして斜頸，顔面痙攣，書痙などがある。ジストニアもジスキネジアもどちらも錐体外路症状であるが，出現する症状が異なる。ジスキネジアは全身の不規則で繰り返すような運動が主な症状。それに対し，ジストニアは全身の筋緊張が主で，体が硬直，痙攣するような症状。
22	手術部位感染＜SSI＞	■手術部位感染＜SSI (Surgical Site Infection)＞ 手術操作が直接加わった部位にみられる感染で，術後に高頻度で認められる感染症。リスク因子は，術前・術中・術後に存在する。

	新出題基準対応新用語	解説文
23	心的外傷後ストレス障害<PTSD>	■心的外傷後ストレス障害（PTSD） 事故，災害，犯罪被害などによる強い心的外傷（トラウマ）後に，その体験の記憶が自分の意志とは関係なく何度も思い出され，フラッシュバックの発作が続き，過覚醒にもかかわらず辛さのあまり現実感がなくなったりするもの．外傷体験後しばらく経ってから発症する．
24	推算糸球体濾過量<eGFR>	■推算糸球体濾過量<eGFR> $eGFR = 194 \times \text{血清Cr} - 1.094 \times \text{年齢} - 0.287$（女性の場合は$\times 0.739$）．90 mL/分/1.73m²以上と暗記する．
25	睡眠時筋電図検査	■睡眠時筋電図検査 睡眠時の状態を評価する検査．睡眠時ブラキシズムを評価するために睡眠時の筋電図検査が行われている．
26	摂食嚥下の5期	■摂食嚥下の5期 先行期，準備期，口腔期，咽頭期，食道期のこと．口腔期は口に入れるまでの段階で，視覚，聴覚，触覚などにより食べ物を認知し，判断する時期．準備期は食物を口に取り込み，咀嚼して食塊を作り舌背中央に配置し飲み込みの準備をする時期．口腔期は食物を咽頭へ送り込む時期．舌尖は，硬口蓋に押しつけられ，口腔・鼻咽腔を閉鎖し，口腔内の圧を高めて食塊を後方へ送る．咽頭期は嚥下反射により，食塊を一瞬で咽頭から食道へ送る時期．咽頭，喉頭，食道入口部が関与する．食道期は食塊が重力や蠕動運動により胃に運ばれる時期．
27	セメント質骨性異形成症	「骨性異形成症」参照．同義．
28	先天性甲状腺機能低下症<クレチン病>	「クレチン病」参照．
29	先天性風疹症候群	■先天性風疹症候群 風疹ウイルスは胎盤を通過して胎児に感染し，特有の臨床症状が出現する．臨床症状としては白内障，先天性心難聴が三大症状である．その他，色素性網膜症，小頭症，精神発達遅滞などがみられる．
30	躁うつ病（双極性障害）	■躁うつ病（双極性障害） 気分の高揚および過活動（躁状態）と落ち込み（うつ状態）の波を繰り返す精神病．
31	適応障害	■適応障害 原因となるストレスが明確で，気分の落ち込みや不安，動悸や呼吸困難や素行障害（人や動物に危害，物を壊す，盗みなど）などが生じる．予後が総じて良好で，多くは3か月以内に元の状態に回復する．
32	特発性下顎頭吸収<進行性下顎頭吸収>	■特発性下顎頭吸収<進行性下顎頭吸収> 原因不明の下顎頭の吸収を短期間に生じる後天性疾患で．前歯部の開咬を生じる．
33	脳性麻痺	■脳性麻痺 脳の発育期間中に生じた脳損傷によって引き起こされた中枢性の運動機能障害．原因としては，酸素欠乏や感染によって生じる脳の損傷や，脳の奇形などがある．

	新出題基準対応新用語	解説文
34	慢性甲状腺炎＜橋本病＞	「橋本病」参照
35	発熱性好中球減少症	■発熱性好中球減少症 がん薬物療法などを行う際に、有害事象として骨髄抑制を発症し、好中球数が減少すると原因不明の発熱をきたすことがある。一般的に①好中球数が500/μL未満、または1,000/μL未満で、48時間以内に500/μL未満に減少すると予測される状態で、かつ②腋窩温37.5℃以上（口腔内温38℃以上）の発熱を生じた状態を発熱性好中球減少症と定義している。同症と診断された場合は、早期に適切な抗菌薬を投与する。
36	パンデミック	■パンデミック 感染症が国境を越えて広がり、複数の国や大陸に拡散して同時流行した状態。
37	皮下気腫	■皮下気腫 皮下組織内に空気が貯まった状態。空気を含んだ皮膚を触ると、プチプチと小さな気泡が潰れるような触り心地がする。
38	副甲状腺機能低下症	■副甲状腺機能低下症 副甲状腺ホルモン(PTH)分泌低下によるPTH作用障害から低カルシウム血症や高リン血症が惹起され、主に低カルシウム血症による症状が問題となる疾患である。手または口周囲のピリピリ感や筋痙攣などがある。重度の場合は、テタニーが生じる。
39	ポリファーマシー	■ポリファーマシー 治療に不要な処方、重複処方や過量処方を含めて服用薬剤数が多く、それらに関連して薬物有害事象のリスクが増加し、服薬過誤や服薬アドヒアランスが低下するなどの問題が増加すること。高齢者においては、薬物有害事象増加の一因とされ、処方内容の適正化が求められ、調剤と医薬品情報の一元管理が課題となっている。
40	免疫チェックポイント阻害薬	■免疫チェックポイント阻害薬 免疫システムには、免疫応答を活性化するアクセル（共刺激分子）と、抑制するブレーキ（共抑制分子）が存在する。癌免疫で、T細胞が癌細胞を攻撃する時にも免疫応答を抑制するシステムが存在し、癌細胞はT細胞の攻撃を免れている。免疫チェックポイント阻害薬は、この癌細胞への免疫系のブレーキを解除することで癌細胞に対する免疫応答を高める作用がある。